

施策分類	省エネ等の対策			
代表的な事業	低公害車の普及・導入、低炭素型の交通施設・交通基盤の整備 等			
期待される効果	<ul style="list-style-type: none"> ・CO₂排出源からの排出抑制。 ・大気汚染等の軽減。 			
モデル事業を通じて明らかとなった課題(うまくいかなかった例)	●地域特性に合わない省エネ技術を採用してしまう			
	<ul style="list-style-type: none"> ・多様な省エネ技術には、現状の技術水準や技術の特性から、地域に適合しない技術である可能性もある。 ・CNGバスや電気自動車等の低公害車は、現状では馬力(パワー)が不十分であったりまた、航続距離が短いといった特性をもっているため、中山間部や自動車の利用距離が比較的長距離である地域での導入には留意する必要がある。 			
	事業例	明らかとなった課題・うまくいかなかった点		
	低公害バス(CNGバス)の導入	CNGバスは従来車に比べて、パワーが小さいため、坂の多い町では、特性が活かせなかった。		
	●低公害車のためのインフラの整備・普及			
	<ul style="list-style-type: none"> ・CNG車や電気自動車等の低公害車の普及・導入では、車両の普及・導入のみならず、CNGや電気を供給するためのインフラの整備も必要である。 ・インフラ施設が不十分であれば、CNG車や電気自動車等の低公害車の利便性が確保できず、普及・導入が進まない場合がある。 			
	事業例	明らかとなった課題・うまくいかなかった点		
	低公害車(CNG車)の導入	スタンドが1箇所であり、利用需要に対して供給が不足した。		
	低公害車の導入・利用促進	今後インフラ整備の進捗と価格の下落によっては、電気自動車の導入も検討していきたいが、当面は軽自動車への切り替え購入や、ハイブリッド車の導入が中心となる。		
	●設備投資などで事業者負担が生じる			
<ul style="list-style-type: none"> ・先進的な機材等は高価であることが多く、導入にあたって補助を行っても、事業者の負担が増加することがある。 				
事業例	明らかとなった課題・うまくいかなかった点			
低公害バスの導入促進	低公害バスは、通常車両価格よりも高価であり、事業者の負担が大きい。			
取組推進上のポイント	①基盤整備			
	<ul style="list-style-type: none"> ・低公害車の普及としては、電気自動車やCNGバスの導入を促進している事例が見られる。 ・これらの車の普及には、電気スタンドやCNGステーション等の基盤整備が不可欠である。 			
	事業概要	事業推進上のポイント	持続性	地域
	低公害車(CNG車)の導入	CNGスタンドの利用需要が高くCNGの供給に難点があったため、スタンドを追加設置して対応した。	単費などで取組み継続	柏市・流山市
	②地域に合った先進技術の導入			
	<ul style="list-style-type: none"> ・技術の進展により、電気自動車も市販されるようになっている。 ・しかし、電気自動車は未だ馬力が小さい等の技術的な課題が残っているため、坂道が多い地域などでは導入が難しいといった意見もある。 ・このような、地形や市民ニーズといった地域の実情に合った省エネ技術を選択することがポイントである。 			
	事業概要	事業推進上のポイント	持続性	地域
	低公害車購入補助	ハイブリッド車の適用車種が拡大する中で、化石燃料の使用量削減という観点から、平成18年度より補助金の対象とするハイブリッド車について排気量制限を設けた。	単費などで取組みを継続	豊田市
	③将来ビジョンの提示			
	<ul style="list-style-type: none"> ・省エネルギーによる低炭素社会、ESTの実現に向け、市民や事業者、自治体内の関係部局等を含む各主体の取組み参加への動機付けのため、将来ビジョンを示すことがポイントである。 			
	事業概要	事業推進上のポイント	持続性	地域
	省エネルギー詳細ビジョンの策定	EST実現のための具体的な施策を策定し、各施策の事業者との情報共有により、気運を高めた。	策定済	神戸市
	④計画的な導入による費用の平準化			
<ul style="list-style-type: none"> ・低公害車の導入にあたっては、車両の更新時期等に合わせて計画的に導入することにより、整備等に掛かるものも含めて費用を平準化することができる。 				
事業概要	事業推進上のポイント	持続性	地域	
公用車における低公害車の導入	公用車の更新時に、可能な車両において低公害車を導入することにより、費用を平準化する。	単費などで取組継続	豊中市	
低公害車の導入・利用促進	より低排出ガスで低燃費な車両を購入するため、車両更新の際、可能な限り軽自動車への切り替えを推進した。	単費などで取組継続	静岡市	

施策分類	省エネ等の対策			
取組推進上のポイント	⑤取組効果の見える化			
	・省エネの取組の効果を数値等で示すことにより、取組意識の向上、取組継続が期待できる。			
	事業概要	事業推進上のポイント	持続性	地域
	バス事業者による環境保全への取組(アイドリングストップ、デジタルタコグラフの活用等)	デジタルタコグラフは、客観的な運転データが抽出ができるため、意識改善、向上心が生じ効果が出やすい。	単費などで取組継続	静岡市
	⑥事業者への支援			
	・事業者が低公害車を導入するにあたって、費用負担が障害となるケースがあるため、補助を行うことで導入を促す。			
事業概要	事業推進上のポイント	持続性	地域	
CNGバス、ハイブリッドバス、新長期規制適合バス等の低公害車の導入促進	国の低公害バス補助とは別に、本市の低公害バス補助と協調する形で、公共交通移動円滑化設備整備費補助が出来るようにした。	補助事業を活用して取組継続	広島市	